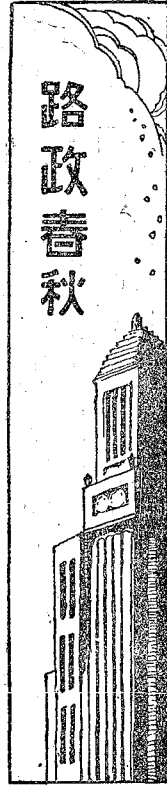


# 路政春秋



## 今に始めぬ受益負擔

道路の受益負擔が道路法制定後の制度でもあるかの如く解するものもあるが、夫れは昔時明治の五年既に奈良縣の達にて其の事あるを知り得る。第百三十六號達奈良縣「今般吉野川水源ヨリ雲瀧村道陸路ヲ開キ川舟ヲ通セン爲近日ヨリ取開キ可申付候尤右兩路取開成功之上者最寄山持之者實ニ富有之根箒トモ可相成儀ニ付則別純五名之者江差向キ水陸普請入費用達擔當申付候條右兩道ニ關係スル村々ハ精々同心協力持高其外相當出金可致且兩道ニ關係セサル者タリ共一般有益之基礎タルヲ篤卜了解致シ有志輩相應之出金可致尤成功之上ハ出金之分償

却之方法相設ケ候條無疑念可差出候因テ其員數並ニ姓名歲明細書載各正副戸長江申出此段相達候也右之趣管内無洩相違者也 壬申十月 奈良縣令 四條隆平(別紙省)と路政研究の一資料と爲すに足らん。

## 十六臂の次官

此頃の官吏殊に要職に在る者は hands 手観音ならずとも、三面六臂では事足らずして十六臂を備へ健康其のものでなければ御役目がつとまり兼ねるであらう。試みに住山徳太郎海軍中將の役目を列擧すれば、海軍次官、企畫院參與、對滿事務局參與、内閣情報部委員、中央統計委員會委員、紀元二千六百年祝典評議委員會委員、臨時資金調整

### 注意

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

委員會委員、教育審議會委員、企畫審議會委員、科學審議會委員、國家總動員審議會委員、北支開發株式會社及中支那振興株式會社政府出資財産評價委員會委員、電氣通信委員會委員、與亞委員會委員、臨時滿洲開拓民審議會委員等擧げ來れば正に十六の職をもつのである。難いかな官吏生活と謂はねばならぬ。

## 路線認定の標準は?

私は路政については極めて未熟の者であります、先達て某縣に參りました節に「縣道路線撰定については十分に地方の關係を考へ縣會諮問の上認定方を申請したるに縣の面目丸潰れと感ずる程變更を加へられ

た。これでは自分ながら何の調査に苦勞したかと思はるゝものである。何か路線の認定につき標準でも示されて居れば斯んな目にはあはされないのであるうしとこぼされた。路線認定については依るべき標準を定められて居りはせないか未知未熟な下級吏に良い指導を與へて下さい。(關西生)

## 郡役所復活の是非

先達て内務省に於て開かれた全國府縣庶務地方兩課長事務打合會で、府縣廳と市町村との中間機關(郡役所)の設置要望が強く論議せられたとの事である。實に時局に即應した要望である。我邦の現状では府縣廳の當局と市町村吏員との間に於てはナンダカシツクリ調子が合はない點が少なくない。心からの親みを感じて地方行政の相談がなし難い。道路の路線の事でも愛護運動の事でもキゴチない取扱ひを受くる事が屢々繰返へさるゝので閉口します。郡役所の復活といふことは、政黨力の旺盛ならざ

る今日では問題ではないから斷行を望む。(善行寺生)

## 街の舗道は何故暑い

殘暑とはいふものの秋の日脚が西に傾き街の舗道を歩く片頬は焼付かる程の暑さを感じる。先日の大朝を見ると何んと面白くて合點の行き易い研究が目についたか、街の舗道の涼しくなる方法をも教へられたい。松島博士は過敏名古屋帝大工學部研究室で模型道路をつくつて太陽の反射率を實驗したところ、反射率の低いものはゴム、黒アスファルト、黒コンクリート、木煉瓦、高いものは石疊の舗道、白コンクリートといふ結果を得た。

大體太陽の反射率とは反射(地面からくる熱のカロリー)を入射(太陽からくる熱のカロリー)で除した商であり、白いものが反射率高く、黒いものが低い、この模型道路の實驗ををばつた博士は歸神し、神戸市内のペーヴメント三種類(アスファルト、

コンクリート、花崗岩)について反射率を調査したところ花崗岩が最も高く以下コンクリート、アスファルトの順となつた。したがつて日中(午前十時から午後二時まで)は石疊の舗道が最も暑く、小石とセメントで固めたコンクリートが次に暑く元町、三宮などのアスファルトはさう暑くない。ところが表面の黒いものは反射率は低くとも熱の吸収が大であり、長時間熱氣を發散する。だから夕方になると日中反射率の高いものほど冷たく感じ、順序は逆となつてアスファルトがいちばんおそくまで暑く以下コンクリート石疊の順となる。つまり反射率の高い白い石は早く冷え、黒いアスファルトはいつまでも暑いのである。

この實驗結果に本づき夕方街を涼しくするには水で洗つて冷せばよく、殊にアスファルトの商店街は(神戸では時間給水で水不足だが)早く撤水して客にサーヴィスすべしといふ議論が生れる。なほ海岸の砂地は街の舗道に比較して反射率はやゝ低い

なにぶん裸足で歩くことが多いため非常に暑く感じるものであり、夕方に早く冷たくなるのは白い砂地なるによる。

## ニユースの取引所？

「某紙に、戦火に燃え上つたヨーロッパ大陸のあらゆる國境線は鐵血で鏝はれた、民族と民族、鐵と鐵、血と血が凄まじい轟音をあげて噛み合ひはじめたのだ、全歐の通信網はこの世紀の齒車に噛み砕かれて遅延し歪んで真相をつかむのはだん／＼困難になつてきた、そこにニユースの重要性が加はつてきた、新大陸の眼であり耳であるニユースは今や全歐の、いな全世界の發刺たるニユースの取引所になつた、ロンドンもパリもまたベルリンもみんなこの取引所から逆送される歐洲電報で情報を獲得するに至つてゐる」と今更無益な犠牲を拂つたと悟りてノモハンの協約成ると夢の如き報は東亞の空電正に正夢。

## 考へ過ぎては？

戦地に郷土勇士慰問團を送り戦士を慰問する事は最も喜ばしき福音である。だが考へ過ぎては愚に返る。去る地方では珍趣向を案出したとて藝妓の演藝慰問團を組織し、まづ最初十月初南支に次いで十一月に北滿、明年三月北支に派遣し、大體本年度中には三回にわたつて派遣することになつた。慰問團藝妓數は大體五名乃至十名の豫定で當局では東、町兩見番と交渉を進めてをり、十月出發する南支班の慰問は四、五十日にわたつて行はれるもので銃聲轟く第一線にまで進出して慰問することになつてゐると傳へらるゝ嗚呼。賢？愚？

## あるかなきかの珍聞

### 奇譚 (83)

○涙の傳説九重塔 國立公園鞍辨天鳥を飾る九重の石層塔は軒厚く雄健な眞反りの花崗岩で作られ、相當年代古きものと鑑定

されながらも雨蝕甚だしく、いつごろの建立か不明のため放置されてゐたところ、このほど郷土史家濱本鶴實氏が同島を訪れ調査中はからずも塔軸部に文永八年六月十五日の銘があることを發見、今をさる六百七十年前鎌倉中期の石層塔全盛時代に建立されたもので、石造美術品として相當重要なものであることが判然とした。同九重塔建立に絡んで、さる昔近江の住人正道といふ武士が嚴島に詣でての歸途、この島を訪れたとき、所持する傳家の寶刀を海中に落した。附近は海深く潮流早き上惡魚(鱸)出沒することゝて、百貫を賭してこれを拾ひあげるやう命じたが、さすが渡守の漁師達も誰一人として進んで飛び込むものもなく、武士が悲歎にくれてゐる折柄、一人の漁師がかくては郷土の恥とばかり千尋の水の中深くもぐりこみ漸くにして太刀をくはへて上つたが、鱗れや片足は惡魚のため咬みとられ、舟に上ると絶命した。正道はいたく不愠がり、かの百貫で高さ二間餘の九重の石塔を建立、懇ろな供佛を營んだといふ涙の傳説が残されてゐる